

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102041		
法人名	社会福祉法人致遠会		
事業所名	グループホームサンハイツ西町Ⅱ		
所在地	長崎市白鳥町9番9号		
自己評価作成日	令和5年8月30日	評価結果市町村受理日	令和5年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

陽がさんさんと降り注ぐ明るいリビングでご利用者の皆様が楽しそうにおしゃべりをしている光景を毎日見ることが出来る。誰でも「自宅が一番」という思いは同じでも「ここも楽しいね」と言っていたことが大きな励みとなっている。職員は、ご利用者様一人一人が抱えておられる思いや価値観を大切に、ゆったりと接しており、それぞれの認知症の症状に向き合いその行動に至った背景を理解しようと努めている。そしてご利用者と職員が共に過ごす時間を大切にしている。また、ご利用者様の体調を把握し命を守るために医療・家族との連携に尽力している。
 コロナ禍で以前より外出の機会はだいぶ減ったが、今年5月より5類への移行に伴い、少しずつ機会を増やしていく予定である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは令和3年6月にグループホーム城栄とグループホーム青山の1ユニットが統合して新たにスタートを切った。居間や食堂はガラス張りである清潔感があり、ソファなどで入居者がゆっくりと寛ぐことができるスペースがある。ホームは地域の一員として地域祭りへ参加したり、雑巾作りを入居者と職員が一緒に行い小学校へ進呈するなど積極的に活動している。母体法人は長崎市内に5か所のグループホームのほか各種の施設や在宅支援サービスがあり、法人全体で情報交換や研修を実施するなど事業所間で協力体制を構築している。職員は明るく笑顔で入居者や来訪者に接し、また、家族アンケートからはすべての家族より「全ての職員がいきいきと働いているように見える」と回答が挙がり、入居者の笑顔も増えていることが実感できるという管理者の言葉からも、今後も入居者支援に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が全員そろったところで経営理念を唱和し、今一度理念の意味を考える機会を持っている。職員会議の時には法人のフィロソフィーの内容を一点読み合せ、それについての感想を述べあっている。	その日の出勤者が全員で理念の唱和を行っている。職員会議でも唱和を行っている。	法人の経営理念をまとめた冊子を入職時に職員へ配布し、月に1回、その冊子を用いて勉強会を行いフィロソフィーの内容を読み合せ感想を述べあっている。定期的に職員それぞれが理念に沿ったケアを考えたり、理念を振り返る機会を設け、入居者に対して一個人として接することを心がけ、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より自治会に加入した。回覧板をまわしたり、自治会の行事などに参加して交流したいと思っている。しかし、コロナの流行も未だ拡大しており、感染のリスクのないよう配慮しながらの交流になってしまおうと思われる。	コロナ禍の為外出できず交流はできていない。何らかの形で交流できる方法を思案中である。	ホームは今年度より自治会に加入しており、地域と顔の見える関係作りに向け取り組んでいる。近くの小学校に入居者が縫った雑巾を届けるなど、入居者の残存能力を活かしながら本人のやりがいや喜びに繋げている。また、運営推進会議にも自治会長、町内会役員が参加し、地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ実践できていないが、自治会の行事や地域の掃除などにご利用者と共に参加して、挨拶をかわしたりすることで少しずつ地域の方たちに認識して頂ける様にしていきたい。	地域の交流はできていないが、今後少しずつでも交流する機会を設けていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度よりコロナで中止となっていた運営推進会議が再開された。地域の方・自治体の方そしてご家族様の意見を直に聞く機会が出来、参考にしながらサービス向上に勤めている。	前年度はコロナの影響で書面での運営推進会議となってしまったが、地域の方々からたくさんの意見をいただいた。今年度より運営推進会議が再開されたので、その機会を生かしサービス向上に努めたい。	市職員、地域住民、家族代表を運営推進会議のメンバーとし、2か月に1回会議を開催している。市の担当者からは事故対策のアドバイスを得たり、地域住民の代表からは地域祭りの情報を得、今年は入居者が参加した。議事録は、家族全員に郵送し、会議の内容を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、報告・情報を伝え、ご意見やアドバイスをいただいている。いただいたご意見については職員会議の時に職員とも共有している。	前年度まではすこやか支援課の方に書面で報告や情報を伝え意見・要望をいただいていた。今年度より運営推進会議が再開され、直に意見をいただけるようになった。	運営推進会議に市の担当者が参加し、アドバイスを得ている。職員が地域ケア会議や各種研修へ参加し、情報交換などを行っている。市が主催するリモート研修にも参加し、研鑽に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設け、身体拘束に関する研修会を2か月に一回、職員会議の時にやっている。身体拘束に当たる行為について職員は把握できている。また、ケアのグレーゾーンについても、研修会の時に話し合い自己チェックを行っている。ユニットの玄関の施錠は24時間していないが、施設の玄関については、防犯上夜間のみ施錠を行っている。	職員会議の時に勉強会を行い知識を深めている。身体拘束に当たる行為が何かを職員が理解し、行わないようにしている。	2か月に1回身体拘束に関する研修会を行い、職員一人ひとりが自らのケアの実践を振り返る機会を持ってもらい、身体拘束について理解・周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ユニットの玄関の施錠は行わず、音色の良い鈴をつけ、入居者の出入りを察知できるよう工夫している。現在、身体拘束をしている入居者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員が2か月に一回職員会議時に資料を基に研修を行っている。職員は常に自分のケアが不適切ではないか意識しながらケアにあたっている。	身体拘束を意識し防止に努めている。職員会議で意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その制度や事業を利用している人が身近にいないせいか、知識も表面的であり、希薄になっていることは否めない。今後は冊子やリーフレットなどを用いまずは興味を持ってもらう事、そして知識を掘り下げていくことから始めたい。	制度については知識が不足している。積極的に研修会などに参加し知識を高めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前任の管理者は説明をしっかりと行ない、ご理解を頂いた上で契約を行っていた。現在の管理者はまだ契約の場面にはあたったことはないが、その際にご納得をいただける様、丁寧な説明を行っていきたいと思っている。	管理者が行っている。ご利用者様・ご家族様が安心して、理解・納得して頂ける様に十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が率直な意見を言いやすくするためにも、面会時や電話などで普段の様子をお知らせし、ご家族様との信頼関係を築いている。9月の敬老会の後には短い時間ではあるが家族会を計画している。その際にいただいた意見を役立てたい。	ご家族様が来所されたときご利用者様の日常の様子を伝え、ご心配等のないように努めている。ご意見などを承った時は迅速に検討していねいな返答・対応をしている。	玄関に意見箱を設置している。コロナ禍により面会制限を継続しているが、今年9月には家族会を開催し、11人参加した。家族会にて入居者の様子をスライドショーで家族に見てもらい、家族から好評であった。今後、管理者は年2回家族会を開催したい意向である。入居者の状況を面会時や電話などで伝えたり、毎月写真入りのたよりを郵送しており家族に感謝されている。	意見箱での意見をスムーズに投書できるように紙・ペンを用意しておくことが望ましい。重事項説明書において第三者評価(外部評価)の受審状況が分かるよう第三者(外部)評価の実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を明記するとともに外部評価受審の際は家族アンケートを実施して客観的に家族の意見をくみ取る機会がある旨を説明することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々職員と接したときに意見や提案などを聞く機会をもつようにしている。出された意見に対しては、職員会議等で他の職員の意見も訊ね、全員で情報を共有している。	毎月の職員会議で意見交換を行い、情報の共有をしている。職員一人一人と話す機会を設けコミュニケーションを図るようにしている。	毎月、定期的に職員会議を行い職員が意見を申し出る機会を設けている。管理者やユニットリーダーは、職員と個人面談を実施したいと考えており、日常的に職員との会話の中で困っていることなどはないかと声をかけ、意見や提案を汲み取るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内研修を企画し外部から講師をまねいている。どの事業所も平等に参加できる機会を作っている。	努めていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修やリーダー研修・管理者研修など、機会と費用を援助してもらっている。それ以外の研修はコロナ禍でリモートとなっているものもあるが、人手不足もあり参加の機会は少ない。その分、職員会議において内部研修の機会を設け、知識の習得に努めている。	コロナの影響で機会が設けられていない。現場の中で創意工夫をしながら成長出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内に当事業所の他に4つのグループホームがあり、それぞれに個性がある。事あるごとに情報交換を行っている。また、長崎市認知症グループホーム協議会に参加して、同業者とのネットワーク作りを行っている。	コロナの影響で自粛の方向である。安全が確実にになった時は以前と同様に参加したい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様と面談し、顔を覚えて頂くことで不安を少しでも払しょくし安心して入所できるよう努めている。関連した事業所や担当ケアマネからも情報をもらい本人様の理解に役立てている。	本人が安心される関係を一日も早く築くため十分にお話を伺う。本人に関する正確な情報を提供して頂き面談する事で安心感を持っていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との面談でしっかりと話を聞く事で、ご家族様の意向や不安を理解しそれにこたえる事の出来る様努めている。	ご家族と会話を重ねる中で実情を把握し、要望や困っていることを共有しより良い信頼関係の構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様としっかり対話し、困りごと・希望を把握し、優先順位の高いと思われるものから支援できる様努めている。	本人が以前と変わらず通院やサービスを受けることが出来る様に多方面からのサービス対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだりテーブルをふいたりとその方に「できること」をお願いしていただいている。皆様楽しく会話をしながら意欲的に取り組んでくださっている。終わった後には必ずお礼の言葉を伝えている。	介護する側される側の立場ではなく、日常の生活を共に暮らしていく、の立場に立ち、関係の構築を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナが5類に移行し、面会も一定の制限はあるができるようになった。面会時には日頃の様子を細かく伝え、時に相談したり話を傾聴することで信頼関係を築いている。	本人が面会を心待ちにする様、家族が面会後に来てよかったと安心して頂ける様、日頃の様子を伝えており、要望などが無いかな声掛けさせて頂いている。毎月お手紙や通信を郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍がまだ完全に開けていない事から、外出の機会もめっきり少なくなりなじみの場所などには行けていない。昔の友人などからお電話が掛かってきた際には、話しやすい環境を整え、ゆっくりと話して頂いている。	コロナの影響もあり、面会が制限された期間も多くあったが、制限が緩和されたときはすぐにご家族に連絡をしお会いできるように努めている。	入居者との面会は家族以外でも可能であり、元職場の同僚や終末期には神父が面会することもあった。入居者が家族へ年賀状を書けるよう支援も行っている。以前は墓参りへ出かけたが自宅が気になる入居者には自宅を見に行くなどの支援を行っている。管理者は状況を見ながら少しずつ再開したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみやコーヒータイムには、明るい会話が交わされている。ご利用者様のペースに合わせて橋渡しをしたり見守りをしてご利用者様同士がよい関係を築けるようサポートしている。	行事やレクリエーションなどを通じご利用者同士の交流が出来るよう機会を設けている。お一人の場合には近くへ行きお話かけや傾聴を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もはがきや電話をいただく事もある。お亡くなりになられた後こちらから連絡をする事はあまりないが、連絡があった際はフォローや相談などしていきたいとは思っている。	サービス利用が終了後も必要に応じて連絡等を行い近況を知るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との何気ない会話の中で、昔の事、価値観に触れる機会がある。ご利用者様との会話を積極的に行い、思いの把握に努めている。それらを記録し、職員間で共有している。思いを口に出来ない方に関しては、ご家族様と対話して、ご本人様の思いを想像して対応している。	ご利用者の思っていることや希望を傾聴しながら引き出し、それに応じられるよう努めている。職員間で共通理解をするため連絡帳を活用し共有している。	入居者の言葉をそのままケース記録に残し、職員間で共有している。その人らしい当たり前の生活を大事にしたと考え、編み物をしたいと言われれば毛糸や編み棒を用意したり、意思疎通が困難な入居者には表情などで思いをくみ取り本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人と話をしたり、入所時の情報提供書やご家族様に話を聞いたりして生活歴を把握し、職員間で共有している。	個別ケースファイルを作成し、フェイスシート等にまとめ職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に何か変わったことがなかったか、ちょっとした変化についても報告し合い、把握している。その上でそれに合わせたスケジュールやケアに努めている。	心身状態及びその現状・気づき等を記録し職員全員が確認できるようにしている。また、連絡帳とは別に医療に関するノートを利用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の時や何かの機会があった時に、事例検討・モニタリングを行い細かなところまで話し合っている。そしてそれをケアプランへと繋げている。	アセスメント・モニタリングを定期的に行い、職員会議にて意見交換や確認を行い、介護計画につなげている。	職員のモニタリングを通じて職員会議で検討し介護計画に反映している。ケース記録には介護計画に即した記録を残している。介護計画は定期的に見直し、本人、家族に説明し、同意を得て交付している。	家族もチームの一員と考え、可能な範囲で家族の意見を聞く機会作り、家族の意見やアイデアを反映した介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変わったことがあった時など、ケース記録に記録をし全職員と共有している。ほのほのという介護ソフトを使用しており、タブレットから全ご利用者の日々の様子が見られるようになっている。変化に対しては職員間で話し合いの機会を持ちケアプランの見直しに活かしている。	毎日ご利用者のケアや身体・行動それに伴う職員の実践内容などケースに記録いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのとき生じた課題についてその方にとって最善の方法を考え解決する方法を選択している。ご家族様や他の専門職の方にも相談しその方にとっていい支援の方法を実践している。	個別のケアを行っている。常に一人一人その時の状況に合ったサービスの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍においてなかなか外出が出来ず施設の周りをお散歩する事しかできなかったが、今年は地域の行事が復活し参加する機会も増えると思われる。自治会の夏祭りに参加する予定である。また、ふれあいセンターなどにもいく事で交流する機会を持ちたい。	コロナ禍もあり地域との連携は取れずにいるが外に出る機会を作りご利用者の楽しみを見出す計画等行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医がそのまま対応して頂ける方については、なじみの主治医との関係を継続して頂いている。歯科医による往診や歯科衛生士による訪問口腔ケアについては入所時に本人様とご家族様に説明し、承諾して頂いた方に実施している。	ご本人・家族の意向を尊重しかかりつけ医を決めている。ご家族対応の場合は受診内容・今後の治療方針等確認し、ご家族と連携を図っている。	受診への同行は家族対応を基本としている。ホームの生活や体調のことで気になることはメモを残して主治医に渡せるようにしている。遠方の家族には訪問診療にて対応している。薬を変更した場合は医療ノートなどに残し、職員間で連携を図っている。法人内の訪問介護事業と連携し、週に1回看護師が訪問し体調観察を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護師が来所し健康観察を行っている。ご利用者様の状態や気づきなどを都度報告し、アドバイスをいただいている。時には看護師が直接医療機関に連絡し専門職の立場から情報を伝え受診へと繋がらせている。	訪問看護を取り入れ医療情報を共有しご利用者の体調の確認や施設で対応出来る助言をもらい日々健康状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはケースワーカーと連絡を取り合い、病状や退院にむけての準備・退院後の支援についての情報共有を行っている。	入院時は病院のケースワーカーと情報共有を行っている。ケースワーカーと連絡を取り合い退院後の支援に向けて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応について説明し同意をいただいている。看取りに際しては多職種と連携し、その方が心身ともに安楽な最後となる様支援をしている。	入所時に看取りの指針を説明しご家族の同意をいただいている。看取りに関する勉強会・研修に参加して知識の向上に努めている。	重度化した場合の対応の指針及び看取りに関する指針を作成し、入居時に家族へ説明し、体調が変化した場合はその都度家族へ意思確認を行っている。ホームにいる間は普通の生活を継続できるよう支援している。看取りに関する研修を行い、職員が不安なく看取り支援が行えるよう体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災委員によるAEDや人工呼吸に関する研修会を行っている。(今年度は9月に予定している)当日出席できなかった職員も後日に実践できる様機会を設けている。	急変時や事故発生時勉強会やマニュアルを通じて対応している。急変時などは実際に経験した職員は少ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月1回消防訓練を実施している。(総合・消火・通報・避難)消防署立ち合いはコロナ禍の為出来ていない。今年度の計画では3月に行う予定である。	防災委員が毎月一回職員と共に消防訓練を実施している。参加している職員には気づきを提出してもらいその都度改善している。	ホームは自主訓練を含め消防訓練を毎月行っている。タブレットで入居者データを管理しており、有事の際も電子媒体で対応し把握できるようにしている。災害時に備えて水や非常食などの備蓄を整備している。	これまで新型コロナ感染対策により地域や消防団との関わりが困難な状況にあった。今後は地域総会などの折に地域住民や消防団との顔の見える関係づくりに努め、協力体制の構築に繋がるよう今後の取り組みに期待したい。また、管理者交代に伴い、自動火災通報装置の登録先を把握しておくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の話を傾聴し「認知症の人」ではなく「〇〇さん」個人を尊重し接するようにしている。その行動を行うに至った心理的推移を推察し、誇りを傷つけない対応を心掛けている。	言葉遣いに気を付け、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう常に意識している。	職員は入居者一人ひとりに応じた声かけを行い、羞恥心に配慮して支援している。接遇委員会を2か月に1回開催し、接遇の目標を立て、職員に周知している。訪問調査時の目標は「高めよう、言葉と心と行動を」であった。職員の様子を観察し、職員一人ひとりが入居者に対して言葉かけや対応を意識してケアを実践していることが窺えた。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が気兼ねなく職員に思いを口にしていただけのような雰囲気づくり・関係づくりに努めている。自己決定が出来る様、話を傾聴し時には相手からの言葉を引き出せるように根気強く待つことを心がけている。	ご利用者の希望や思いを自由に口にできるような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	病院の受診を除いては、日々のスケジュールは決めておらず、その時々でご利用者の希望に沿った時間を過ごしていただいている。	一人一人のペースに合った介護を心がけよう過ごしたいかなどの希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに合った洋服でなおかつ清潔な身だしなみになるよう支援している。季節に合わない服装の時はさりげなく声掛けをしている。また、ご自身で選べないご利用者には職員と一緒に衣服を選択している。	着替えの際はご利用者と一緒に選び清潔で整った容姿になるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部発注であるが、盛り付けを工夫したりメニューから話題を広げたりして楽しく食事ができるよう雰囲気づくりに努めている。食後にはご利用者に下膳をしていただいたり、テーブルを拭いて頂いたりしている。	その日の献立を話題に出しそこからの会話を広げている。外注なので準備はできないが下膳などできることはしていただいている。	コップは入居者が自宅で使用していた馴染みのものである。炊飯はホームで行い、副食は外部に発注しているが、必ず加熱し、温かくして提供している。テーブル拭きや下膳など入居者のできることをしてもらい残存能力を活かした支援に努めている。おやつはホームで提供しており、時には入居者と一緒におやつ作りも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合った食事形態をすることで確実に栄養がとれるよう工夫している。食事摂取量・水分量は記録し管理している。飲み物についてもワンパターンにならない様々なバリエーションを用意し楽しんで飲んで頂けるよう工夫している。	水分量や食事を記録し管理している。無理強いせず一人一人に合った摂取方法で提供するなど、工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。ご自分でできる方は声掛けを、介助が必要な方は職員が仕上げ磨きを行い、口腔内が清潔に保てるよう支援している。週に一回歯科衛生士による訪問口腔ケア指導を受け、気になる所があればかかりつけの歯科を連携し治療を行っている。	食後の口腔ケアをおこない、自身で行える人は最後に仕上げ磨きを行っている。2週に一回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握しそれに応じて誘導を行っている。パッドはあてていても、殆どトイレでの排泄となっている方が多数おられる。トイレの声掛けの際は周りに聞こえない様配慮している。	食前食後には排泄の誘導を行っている。ご利用者の排泄パターンに合わせて自立に向けた支援に努めている。	タブレットを用いて排泄チェックを行い、職員間で共有して、入居者へ声掛け、誘導を行っている。声掛け時は周囲に聞こえないよう配慮している。本人が好む色のリハビリパンツを愛らしいカゴに入れて用意し、本人が自ら交換できるように工夫するなど、排泄の自立に向け取り組んでいる。現在、ポータブルトイレを使用する方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、水分量・運動・食事の内容(食物繊維の摂取)に気がかけ予防に努めている。それでも排便がない時は主治医や看護師に相談し、指示をいただいている。	食事では野菜をしっかり食べていたため声掛け、水分量にも心がけている。主治医に相談し医療的な指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴を目安にしているが、ご本人の希望や気分を優先している。拒否がある時は無理には誘わない。タイミングや声掛けを変えたと入浴できなくなることもある。	隔日の入浴を心がけ希望がある時は対応を行いお気持ちにそうすることが出来るようにしている。時間については夕方や夜間が好ましいと思うが対応がむずかしい。	隔日で入浴できるよう取り組んでいる。ゆず湯や菖蒲湯などで季節感を取り入れたり、気持ち良く入浴してもらえるよう好みのシャンプーや入浴剤を使用するなど個別に対応している。また、機械浴を設置し、重度化しても湯船に浸かれるよう配慮している。体調不良により入浴できない場合は、清拭やドライシャンプー、手浴、足浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れなくてテレビをつけている方もおられるが、特に周りに影響がない場合はそのまま様子を見守っている。日中もその方のタイミングで休んでいただいている。気持ち良く眠れるよう、環境を清潔に快適に保つよう心掛けている。	日中体調がすぐれない方はもちろん、休みたいと希望されたり、様子から判断で切る時は休んでいただいている。寝具についても清潔に保つことを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の基礎疾患を知り、薬剤の内容を理解できるよう確認している。それを服用する事でどのような変化があったのかに気づけるよう様子を観察している。その方に合った方法で確実に服薬しているのを毎回確認している。誤薬を防ぐために職員の声を出してダブルチェックと服薬後の袋の確認も行っている。	どのような薬が処方されているのか理解し、服用したことで症状が変化したか見極め、些細な変化でも医療と情報を共有している。嚥下状態に応じてトロミやゼリーなど利用し飲みやすいよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方ができる事、好きな事を把握し楽しんでいただけることを常に思案している。家事や軽作業を手伝って頂いた時には、必ずお礼の言葉を伝え、誰かの役に立っているという自信を持っていただける様支援している。	季節の壁飾りなど興味のあるご利用者と一緒に作成したり家事を手伝って頂くこともあり、作業後は感謝の言葉を添えて信頼関係を築いている。また、ご利用者との会話の中から新しい楽しみごとなど提案できないか考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の今は以前の様におくちに行ったり、行きつけの美容院に行く事もほとんどなくなっている。外出がご利用者のストレス解消や気分転換になり、生きる張り合いにもなるため、少しずつ外出の機会を設けていきたいとは思っている。	コロナの為あまり外出できていなかったが、ドライブなど人との接触をあまりしないように注意しながら外出できるよう工夫している。	家族と共に県外の結婚式に出席した入居者もいる。今年は地域祭りに参加したり、ドライブにてコスモスを見学することも予定している。時季や天候に応じて散歩をして落ち葉を拾い、ホームで飾り付けを行うなど、できる限り本人の希望に沿った外出支援を心がけている。今後は近くのパン屋へ入居者と一緒買い物へ行くことを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者個人のお金は所持していない。必要な物は立て替えて対応している。ちょっとしたお散歩や外出の際に買い物をする機会を持てればと思っている。	現在はご利用者個人のお金は所持せず、必要なものについては立て替えし請求させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から要望があれば代わりに電話を掛けて本人に代わったりしている。ご家族からの電話も多く、職員は話しやすい環境になるよう配慮している。年賀状や手紙のやり取りも行っている。	ご利用者からの希望があればいつでも間に入りスムーズに会話が出来るよう対応している。ご家族から電話があった時も同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当グループホームは明るく間口も広くゆったりとした作りになっている。日々の清掃・消毒を行い、清潔な環境になるよう努めている。飾り付けや花・食べ物などで季節を感じていただいている。	常に清潔な空間を保つようにしている。温度・湿度についてはアプリの「まもる一の」やリビングの温湿度計を利用し適度に保つように心がけている。	共有空間は毎日清掃や消毒を行い、清潔な環境が保たれている。温度や室温にも留意し、アプリや湿度計を使用して管理している。リビングには入居者と職員と一緒に作成した季節の飾り付けを掲示したり、雛祭りの時期には8段飾りの雛人形を飾るなど、入居者に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:せせらぎ)	実践状況(ユニット名:ひだまり)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方のペースに合わせてお一人で過ごしたい方、仲良くおしゃべりしたい方に合った空間づくり(ソファや席の配置)に配慮している。	居室やテーブル席、ソファなど過ごしていただける空間を準備し過ごしたいところで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前より使用していたなじみの物や仏壇、家族写真などを居室に置き、施設に居ながらもご家族を身近に感じていただける様工夫している。	なじみの物を居室に飾るなどし、リラクセスできる空間となるよう努めている。	居室の清掃を毎日行っている。パットやおむつなどは収納棚に入れ、人目につかないよう配慮している。入居時に自宅より仏壇や家族写真といった馴染みのものを持ち込むことができる旨を家族へ説明している。看取り時には家族も宿泊できるように布団の準備を行うなど配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・洗面所など共用の部分にはわかりやすいように色付きの表示をつけている。ご利用者はそれぞれの場所を理解し、ご自分で使用されている。また、各居室の入口には職員手作りの表札を掲げている。ご利用者はご自分の部屋として認識されている。	居室には表札を、トイレや浴室には目に届きやすい位置に表示をしている。安全に自立した生活が出来る。近位で見守りながら環境づくりを行っている。		